

短大生のチャイルドシートに関する意識の検討

Study of College Students Awareness of Child Car Seat

山口 直 範

YAMAGUCHI Tadanori

幼稚園教諭や保育士（以下、保育者とする）を養成する短期大学の学生を対象にチャイルドシートに関する意識を質問紙にて調査した。調査1では（財）日本交通安全教育普及協会が発行するチャイルドシート指導員養成研修会（以下、指導員研修とする）の受講前と受講後の個人内の意識を測定した。18項目中17項目に有意な差が認められ、交通安全においてより望ましい態度変容が認められた。また、調査2では受講群は指導員研修を受講した学生、一般群は特別な交通教育を受けていない学生で質問紙調査を実施した。一般群に比して受講群は、チャイルドシートに関する基礎知識や必要性への理解がより高まり、啓発活動への意思が高いことが認められた。

キーワード：チャイルドシート、短大生、保育者、交通安全教育

Key Words：Child car seat, College students, Child minder, Traffic safety education

1. はじめに

幼児用補助装置（以下チャイルドシートとする）の使用は2000年4月1日から6歳未満の幼児を対象として法律によって義務化された。しかし、過去5年間の使用率は50%前後を推移しており、決して高いとはいえない。警察庁と日本自動車連盟（以下JAFとする）による自動車乗車中の6歳未満の子どもを対象にした「チャイルドシートの使用状況について¹⁾」の全国合同調査によると本年は前年比でわずかに上昇しているが、2011年の使用率でさえ未だ57.0%である。この結果から6歳未満の幼児の4割以上がチャイルドシートを使用していないことになるのだが、未使用児の状況は発達段階によって異なる。警察庁によると1歳未満の使用率が80.4%であるのに対して1～4歳では58.2%、5歳の幼児についてはわずか34.6%にまで落ち込むのである。乳児に対しては安全への配慮が高いのだが就学が近づくにつれて意識が低下していることがうかがえる。

また、全国8地域で実施した「チャイルドシートの

取り付け状況調査結果^{2),3)}」では、取扱説明書通り正しく取り付けられていたものは、乳児用シートが37.2%、幼児用シートが24.8%にとどまる結果であった。すなわち全体では約7割が適切に取り付けられていない状況である。さらにチャイルドシートは適切に取り付けられていてもミスユースでは意味を持たない。ミスユースの原因は「シートベルト（腰ベルト）の締付け不足」が多く、着座状況にも問題がある。取扱説明書通りに正しく着座されていた子どもは、全体で51.7%と約半数にとどまり、ミスユースで最も多い原因は、乳児用・幼児用シートは「ハーネス（子ども用シートベルト）の締付け不足」で、学童用シートは基準の体重（15～36kg）に満たない「体格不適合」での使用などが多い。

チャイルドシートの普及活動については、警察をはじめとする交通関連の各団体によって実施されているが、浸透しているとはいえない状況であることがわかる。筆者は新たな普及対策として現職の保育者と平行し、保育者を目指す学生への教育のひとつとして

チャイルドシートについて学習させていくことが有効ではなかろうかと考える。本研究は、保育者を目指している短期大学生を対象とした探索的な実践研究である。

2. 目的

保育者を養成する短期大学の学生がチャイルドシートの使用についてどのように考えているのか実態を調査することを目的とする。また、指導員研修を受講させることによって、学生の意識にどのような変化があるのかを検討する。

3. 方法

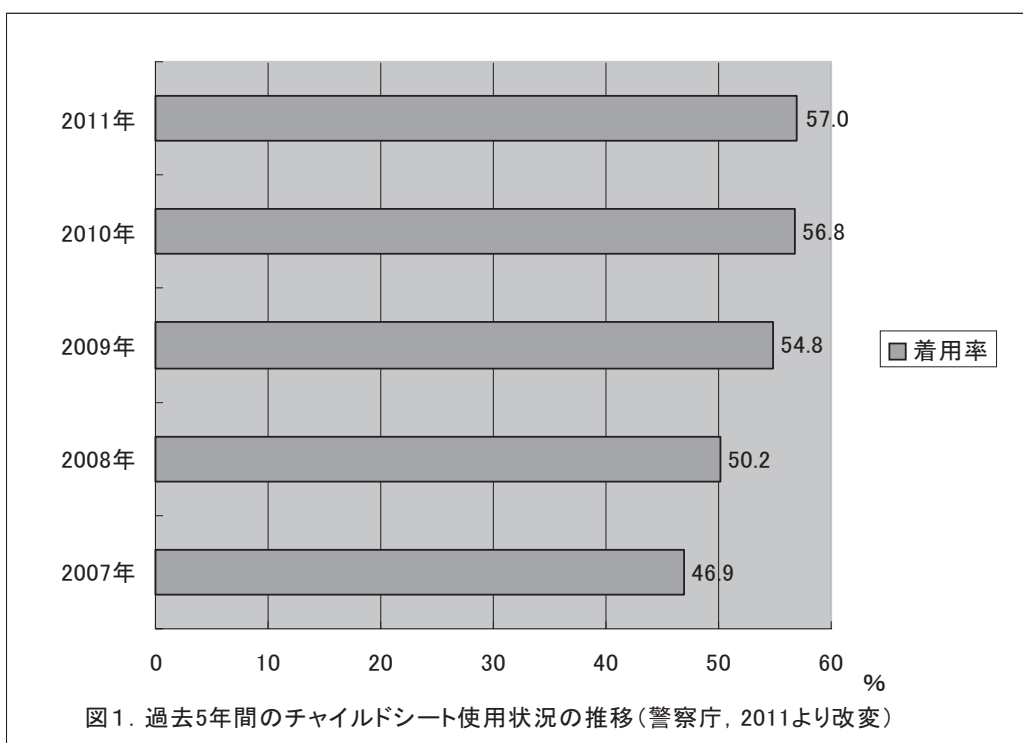
3-1 調査1

(1) 質問紙

リッカート式の質問項目および自由記述による調査を無記名にて実施した。質問項目はチャイルドシートの必要性などの基礎知識、啓発活動の意志、取り付け方法、使用方法などについてオリジナルの18項目で構成され、受講前と受講後の気持ちについて5件法（5.

全くそのとおり 4.そのとおり 3.どちらでもない 2.そんなことない 1.決してそんなことない）によって回答を求めた。また、自由記述による調査は、質問項目の下に欄を設け、受講後の感想について記述するように求めた（質問項目は資料1参照）。

質問紙は（財）日本交通安全教育普及協会が主催する指導員研修に参加した学生を対象に調査した。本来は受講の前後に時間をとって質問紙に回答させたかったのだが、当日、受講するのは学生だけではなく一般にも門戸を開いており、公の場で学生だけに対して教示することが困難な状況であった。また、本調査は受講者全体の意識の変容を調査するものではなく、個人内の変容について調査するものである。そのため、質問紙は対応のあるものでなければならない。調査対象者には、思うままに回答してもらえよう無記名での調査としたため、受講前に調査を実施し、質問紙を回収した後に、再度受講後に質問紙を配布する方法がとれなかった。受講後に一括して調査することにより回答の際に期待される学習効果に応えようとする気持ちが働くものである。緩衝策として質問紙配布の際、あ



りのままの気持ちで回答するようにとの教示を実施し、バイアスの影響を緩和させた。

(2) 調査対象者

K自動車教習所にて開催された指導員研修を受講したO短期大学幼児教育学科の2年生48名(女子39名,男子9名)を対象とした。対象者は全員翌日に卒業式を控えた学生であり,被験者全員が保育職への就職が内定していた。

(3) 調査期間

2008年3月18日の指導員研修受講後に調査を実施した。

3-2 調査2

(1) 質問紙

リッカート式の質問紙調査を無記名にて実施した。質問項目については調査1で使用した内容と同じであるが,講習前・講習後を削除して5件法(5.全くそのとおり 4.そのとおり 3.どちらでもない 2.そんなことない 1.決してそんなことない)によって回答を求めた。

(2) 調査対象者

受講群:2008年11月12日O短期大学にて開催された指導員研修を受講したO短期大学幼児教育学科の2年生女子学生86名。

一般群:特別な交通教育を受けていないO女子短期大学児童教育学科の2年生129名。

両群共に保育士資格および幼稚園教諭二種免許状を取得見込みの学生である。

(3) 調査期間

両群ともに2年生後期に調査を実施した。

受講群:2008年11月12~19日

一般群:2009年1月30日

4. 結果

4-1 調査1

(1) 平均値の差が大きかった項目

18項目の質問の回答に対して,研修の受講前と受講後の平均値について対応のあるt検定を実施した。18項目中,17項目において統計的に有意な差が認められ,交通安全上望ましい結果であった。統計的には「13.低速での事故なら,だっこしていれば大げがはしない」

のみが $p<.01$ であり,他の16項目については $p<.001$ と非常に高い有意差であった。t値の高かった上位3項目について以下に示す。

- ①「12.身長や体重によりチャイルドシートの種類があることを知っている($t=19.038$, $p<.001$)」
- ②「5.チャイルドシートを間違えて使用している人を見たら声をかける($t=14.133$, $p<.001$)」
- ③「10.チャイルドシートの大切さを人に伝えたい($t=12.879$, $p<.001$)」

なお,統計的に有意な差が認められなかった項目は「17.厚手の服を着ていてもチャイルドシートの効果は変わらない($t=.428$)」のみであった。

(2) 自由記述

48名中,46名が受講後の感想を自由記述によって回答をした。記述された文章で特に印象深い内容を4例選出し,以下に示す。

- ①「チャイルドシートをしていても,使い方,付け方をしっかり理解していないと効果を発揮しないということがわかった」
- ②「チャイルドシートには何種類かあり,年齢,体格によって変えるなんて知らなかった」
- ③「保育者として保護者へチャイルドシートを正しくすすめることができるようになったと思う」
- ④「取り付けのためには自分の思っていたより力がいることを知りました」



図2. 左が幼児用,右が乳児用のチャイルドシート
幼児用シートに乳児の人形を乗せると適切な使用状況ではないことがよくわかる。

4-2 調査2

775, $p < .001$ 」

(1) 平均値の差が大きかった項目

受講群と一般群の各項目の回答から平均値を算出した(図3)。また、受講群と一般群の各質問項目の平均値に対してt検定を実施したところ、18項目中、15項目において統計的に有意な差が認められた。受講群のチャイルドシートへの意識は、一般群に比して交通安全上より望ましかった。平均値の差が大きかった上位3項目については、以下のとおりである。

- ①「5.チャイルドシートを間違っ使用している人を見たら声をかける ($t=11.552, p < .001$)」
- ②「12.身長や体重によりチャイルドシートの種類があることを知っている ($t=9.646, p < .001$)」
- ③「16.交通事故での車外放出の危険性を知っている ($t=8.417, p < .001$)」

(2) 平均値の差が小さかった項目

平均値の差が小さかった上位3項目は以下のとおりである。

- ①「13.低速での事故なら、だっこしていれば大げがはしない ($t=1.058$)」
- ②「3.保育者としてチャイルドシートの使用を勧めたい ($t=3.506, p < .001$)」
- ③「1.チャイルドシートの使用は当然のことだ ($t=3.$

5. 考察

5-1 調査1

(1) t検定の結果

1項目を除き他は全てにおいて有意な差が認められたことは、本研修の効果である。しかし、交通教育者としては素直に喜べる結果とはいえない。なぜならチャイルドシートについての認識が甘かったことのと表れとも解釈できるからである。今回の受講者である学生たちは知識と技術を学ぶ機会に恵まれたが他の養成校では、どうなのであろうか。本研修を参考に全国の保育者養成校と地域の自動車教習所が協力しあってチャイルドシートの普及に貢献することを望む。また、有意差が認められなかった項目17は、研修で配布されたテキストには記載されていたが研修時には触れられなかった内容であった。そのため、どちらともいえないという回答が多くなったと推察され、その影響が表れたと考えられる。

(2) 自由記述

学生の記述からチャイルドシートについて今まで無知であったことがうかがえる。発達段階に応じて種類があり、適切に取り付けなければ本来の性能は発揮で

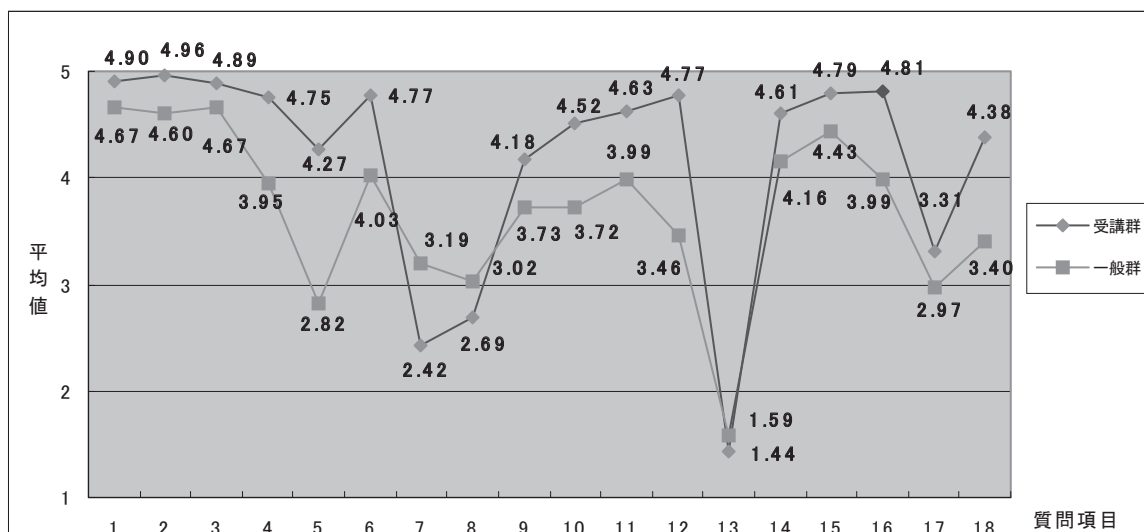


図3.受講群と一般群の各質問の平均値(7.8.13.17は逆転項目)

きないことなどは交通安全教育に携わるものであれば周知の事実である。子どもや保護者の援助者となる学生が初歩的なことすら理解できていなかったことが露呈されたと言える。しかし、保育者として職に就いた際に保護者に適切な使用を教えたいという内容の記述が多かったことは、本研修を受講することによりチャイルドシートの使用や交通安全への啓発意識が高まったことが示唆される。

5-2 調査2

(1) t 検定の結果

15項目において統計的に有意な差が認められたが、図3が示すように群間にわずかな差でも有意差が認められる結果であった。平均値の差が少なかった項目でも $p < .001$ となったのは、受講群の分散が小さかったことが影響していると考えられる。

また、一般群の回答の多くは保育者として子どもの安全を理解していることが示唆される値であった。すなわちチャイルドシートの必要性は理解しているが、他者への啓発ができるまでの専門知識は持ち合わせていないことが考えられる。本研究の質問項目は、チャイルドシートに関する意識の基礎的なデータ収集と指導員研修受講による学生の意識の変容を検討することである。多くの項目に有意差が認められたことは受講群の研修効果であることが推察される。しかし、決して一般群のチャイルドシートへの意識が低かったわけではない。保育者として必要な教育を2年間に渡って学んだことにより、子どもの生命を大切にしたいという気持ちが育まれていたと考えられる値であったことを付記しておく。

(2) 「Yes率」の比較

t検定の結果、両群の平均値の差が最も大きかった項目は「5.チャイルドシートを間違っ使用している人を見たら声をかける」であった。この項目について5件法の回答で「4.そのとおり」及び「5.全くそのとおり」と答えた比率を「Yes率」として求めたところ、受講群は84.5%、一般群は17.8%であった。大差の要因として受講群はチャイルドシート研修を受講することにより、正しい使用方法や取り付け技術に自信を持つことができたのではないかと考えられる。被験者は両群ともに約2年間に渡り、幼児教育を学んで

きた学生である。子どもの擁護については保育士資格取得の履修科目により学んでいるが、チャイルドシートの専門知識を修得する内容は含まれていない。本研修を受講することにより、他者への啓発活動が可能なほどに知識を備えたのではなかろうか。すなわち、保育者としてより望ましい方向へ交通安全態度の変容があったことが示唆される。

6. おわりに

今回の調査においてはチャイルドシート指導員研修受講者には望ましい態度変容が認められた。しかし、例え適切な知識やスキルを獲得していたとしてもチャイルドシートに触れる機会がなければスキルの衰えは避けられない。受講後に交通安全への意識が高まったことは当然とも言える。今後の課題はその気持ちをいかにして持続させるかであり、保育現場での実践指導や研修会への参加などチャイルドシート普及への日常的な活動が求められる。

引用文献

- 1) 警察庁：「子どもを守るチャイルドシート」、
http://www.npa.go.jp/koutsuu/kikaku/childseat/index.htm#c_sheet (2011.11.30)
- 2) 警察庁、日本自動車連盟：「チャイルドシート取り付け状況調査結果」、
<http://www.jaf.or.jp/eco-safety/safety/data/pdf/crsdata2011.pdfpp.7-8>
(2011.11.30)
- 3) 日本自動車連盟：「JAFニュース チャイルドシートの使用率は57.0%」、
http://www.jaf.or.jp/profile/news/file/2011_36.htm (2011.11.30)

資料1. 調査1で使用した質問紙

チャイルドシート指導員講習に関する調査

性別（女・男）

所有している運転免許証（普通車・自動二輪・原付・免許なし）

下記の質問に対してチャイルドシート指導員講習に参加する前の気持ちと現在の気持ちをお答えください。
集計したデータは今後の教育に役立てるために使用するもので回答者の皆さんを個人的に
評価したり迷惑をかけたりすることはありませんので思ったとおりに回答してください。

5. 全くそのとおり 4. そのとおり 3. どちらでもない 2. そんなことない 1. 決してそんなことない

| | 講習前 | 講習後(現在) |
|---|-----------|-----------|
| 1 チャイルドシートの使用は当然のことだ | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 2 チャイルドシートは子どもの命を守る | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 3 保育者としてチャイルドシートの使用を勧めたい | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 4 チャイルドシートの必要性を理解している | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 5 チャイルドシートを間違っ使用している人を見たら声をかける | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 6 チャイルドシートの使用が義務化されているのを知っている | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 7 チャイルドシートは大切だがまだ自分には関係ない | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 8 チャイルドシートの取り付け方法はむずかしい | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 9 日ごろから積極的にチャイルドシートを使用したい | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 10 チャイルドシートの大切さを人に伝えたい | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 11 保育者はチャイルドシートの取り付けができるべきだ | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 12 身長や体重によりチャイルドシートの種類があることを知っている | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 13 低速での事故なら、だっこしていれば大げがはしない | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 14 少しの移動でもチャイルドシートを使用する | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 15 チャイルドシートは正しい取り付けが絶対条件だ | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 16 交通事故での車外放出の危険性を知っている | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 17 厚手の服を着ていてもチャイルドシートの効果は変わらない | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |
| 18 助手席（前の座席）でチャイルドシートを使用してはいけない | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 |

チャイルドシート指導員養成講習に参加して、あなたが感じたことについて自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました
 ○○短期大学 ○○自動車教習所